

地方小出版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 『漫画批評』が目指すもの

読者に何か気づきを与えられる雑誌であること  
絶賛か中傷かの両極端な状態に陥ることなく  
地味であっても堅実な作品にスポットライトを

文・渡瀬 基樹

昨年10月に創刊した『漫画批評』は、かつてネットで漫画の評論サイトを運営していた有志たちに協力してもらい、制作している雑誌です。創刊前には、まずインターネットで作って様子を見れば？という意見もありました。しかし雑誌の方が影響力も信頼性も圧倒的に高いこと。そしてネットではまったく売上げが立たないため、趣味のレベルで終わってしまうことが、経験上容易に想像が付いたため、あくまで雑誌という形にこだわりました。



うですが)が伝えられたときには、強い衝撃を受けました。今後自分が似たようなスタイルの漫画評論誌を作っても、ビジネスモデルとして成り立たないかもしれない。そういった強迫観念に駆られたためです。

ちょうど勤務していた出版社を辞め、フリーの編集者となることが決

まっていた時期でした。作りたい雑誌のイメージや、表現したいこともおぼろげながら浮かんでいました。そして、直近に『酒とつまみ』という成功例の存在を知ったことが、最後に背中を押してくれました。いまならまだ勝算があるかもしれない。いっちょやってみるか！ということで、約1年間の準備期間を得て、なんとか形にしたのが『漫画批評』です。

生まれたてホヤホヤの超零細誌ですが、せめて理念くらいは崇高な体を装っておこう！ということで、創刊にあたってはエラソーにもコンセプトをいくつか決めました。まずは「読者に何か気づきを与えられる雑誌」であること。漫画界は昔から、評論よりもガイドのほうが圧倒的に多いという、「文化」と呼ぶにはちょっと難のある状態にあります。ガイドというものは、読んだことのない面白い作品を探すという点では実に有益な存在ですが、漫画界が発展するような指摘や提言が生まれる可

能性は極めて低いわけです。そこで、あくまで評論としての体を崩さないために、読者が漫画に対して考えるきっかけを与えられるような内容を、各ページに何か1つでも入れてもらえるよう、執筆者に依頼しています。

面白い作品を面白い、つまらない作品をつまらないというだけでなく、「中くらいなものの中くらい」と言っている、というのもコンセプトの1つです。漫画の評論は絶賛か中傷かの両極端な状態に陥る傾向が高く、堅実であっても地味な作品にはスポットライトがあたりにくいのが現状です。我々は、これまでとは違った部分に一石を投じることで、漫画業界の発展に寄与したいと考えています。もっとも、他媒体とは違った作品を取り上げることによる、隙間産業的なシタゴコロまるだしの戦略があることも否定できません。

**作り手だけでなく、取次や書店などの流通過程にも積極的に提言し、硬派な漫画評論誌でありたい**

さらに「漫画至上主義」という考えを持っています。これには2つの要素があって、まず誌面では漫画に関係する話題しか取り上げないという方針。そして、漫画というジャンルが不利になるような法規制や、社会的風潮に対しては、徹底的に漫画界を庇ってこういう姿勢です。90年代の有害コミック騒動のような事態が再び起こった場合、とにかくやみくもに、なんとしても漫画を守る。いざとなったら他のジャンルに矛先を逸らすことだって、やぶさかではない。それによってアニメや映画、ゲームや文学、演劇などが衰退しようという一向にカマワンのだ！ということです。なんとも攻撃的な内容ですが、本音や現実的な部分はともかくとして、あくまで誌面上の理念としてはそういう姿勢でやっというも

『本の雑誌』『広告批評』のスタンスが好きで毎号購入していた

発行人・編集人を務めている私は、学生時代より『本の雑誌』と『広告批評』の2誌に憧れを抱いていました。「本」にも「広告」にも実はそれほど興味はなかったのですが、『本の雑誌』は創刊がちょうど私の生年と同じで(つまり地方・小出版流通センターさんが設立された年でもあります)、『広告批評』ともども、コンセプトやスタンスが好きで、毎号購入していました。実際に判型やスタイルなど、多くの部分を参考にさせて頂いています。

それだけに、一昨年に発表された『広告批評』の休刊、そして『本の雑誌』の経営危機(現在は乗り越えられたよ

のだとご理解下さい。

『漫画批評』が批評の対象としているのは基本的に商業作品ですが、それ以外にも広義の「作り手」について触れていきたいと考えています。作家や編集者だけでなく、出版社や印刷・製本の工程、取次や書店などの流過程、さらには「読み方」に対しても、積極

的に提言を行っていかうと思っっています。目標は「読み手には啓蒙」を、「作り手にはフィードバック」を与えられる、硬派な漫画評論誌になることです。そのためにも、いわゆるオタクと呼ばれる層や、特定の作家のファンといった方々を、過剰に意識しない誌面作りを行うことに注意しています。

第2号は3月中に何とか発行できればと考えています。ボランティアのスタッフによって作られているという事情がありますので、あまり無理はできませんが、年間3～4冊という発行スケジュールを守りながら、地道に制作していかうと思っっています。

(わたせもとき・『漫画批評』発行人)

## 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

### 『まねっこでいいから』 ●文・内田麟太郎 絵・味戸ケイコ



その女の子は、お母さんから抱っこをされたことがありませんでした。ぶたれて雨の中へ追い出されたこともありました。女の子はやがて大きくなり、お母さんになりました。しかし、自分の赤ちゃんを抱っこすることができず、いつも黙ってそばにいただけでした。赤ちゃんが成長して女の子になった時言います。「ママ。まねっこでいいから、だっこして。」お母さんは、おどおどと娘

を抱っこしました。すると…。

幼児虐待を受け、わが子を抱けないで苦しんでいるお母さんに、著者の内田さんが出会ったことから生まれた絵本です。そのお母さんに「まっ先に届けたい絵本です」と内田さんは書いています。

◆1575円・240mm×180mm判・32頁・瑞雲舎・東京・2009/12刊・978-4-916016-88-1

### 『里の音の自然誌 一生きものの声から風景を聴く』 ●内田 正吉著



秩父の山並みへと連なる埼玉県の平野部、屋敷林や畑、水田のあるかつては養蚕が盛んだった農村集落が本書の舞台である。キリギリス、アオマツムシ、ウマオイ、コオロギなどの鳴く虫、セミ、アマガエルや、ウグイス、ヒバリ、ヒヨドリ、モズなどの野鳥。こういった生きものの鳴き声とおして季節の移ろいや、朝から夜への一日の動きを風景として描いていく。

たとえばスズメ。陽春のチュリチュリという軟らかい鳴き声はやがて初夏へ向けてピユユに変わり、チーチーチーと雛たちの鳴き声も加わる。秋の到来とともに増すチュンチュンの鳴き声。晩秋から冬の夕暮れにはジュクジュクジュクと鳴き続ける。そしてチュリチュリの春へと廻る。

◆630円・A5判・95頁・エッチエスケー・埼玉・2009/12刊・978-4-902424-09-6

### 『この女、末期ガンにつき 明日をも知れない!?ハチャメチャな毎日』 ●ひたに まりこ著



うっしっし、まだ生きてるぞー。2007年9月に肺ガンと診断され、しかも骨、脳、リンパにも転移しており、余命半年と言われながらもブログを書き綴るライターの著者。闘病記というと湿っぽくなりがちだが、本書はあくまでも前向きで、納得が行かない時には医者ともやり合うし、息子や友人とも本音を言い合う。別れた亭主もガンとわかり、人生の妙を感じさせる結末が待っている。痛みや辛さと向き合いながらも、自

分のことは頑固なまでに自分で決める。“こう身近に死があると悩むことが馬鹿馬鹿しく感じられてしまうから、かなり陽気な日々を送っているのが現実である”など、元気をもらえる言葉がたくさん詰まっている型破りな闘病日記。

◆1800円・四六判・255頁・We出版・東京・2009/11刊・978-4-904009-03-1

### 『ドストエフスキの〈世界意識〉—その文学・人間・思想・社会観の小宇宙』 ●立石 伯著



ペトラシェフスキー事件で秘密警察に逮捕された青年ドストエフスキは、サークル内の極左的グループに属していたのだが、出獄後、クリミア戦争のロシアを賛美する詩を書いている。その後も彼はスラヴ主義的(保守主義的)な言説を繰り返す。著者はこの経緯について、日本の昭和期における《転向》と相似形をなしていることを指摘するが、ドストエフスキが常に当時の皇帝官房

第三部から監視・検閲されていたことを強調し、断定的評価を留保している。

本書は『作家の日記』『論文・記録』をテキストとして、ドストエフスキの主に政治・社会思想を考察しているのだが、後期大作群とは違う意外な素顔を発見できて面白い。

◆2940円・A5判・349頁・深夜叢書社・東京・2009/11刊・978-4-88032-296-4

# 売行良好書

期間：2010年1月16日～2月15日

## 【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『新装版 不思議の国のアリス・オリジナル』2100円・書籍情報社 (2)『ゆりちかへ』1365円・書肆侃侃房 (3)『ろう者のトリセツ 聴者のトリセツ』1260円・星湖舎 (4)『家系は語る』1300円・アートヴィレッジ (5)『デザイナーズワークブック<1>』1260円・木星舎 (6)『冷凍しておく、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (7)『読みきかせ絵本 260』1050円・親子読書地域文庫全国連絡会 (8)『こんな風に過ぎて行くのなら』2100円・石風社 (9)『原色非実用野鳥おもしろ図鑑』1995円・日本野鳥の会 (10)『名古屋の市電と街並み』3465円・トンボ出版 (11)『ホットケーキ』1680円・東京子ども図書館 (12)『書物の声 歴史の声』2415円・玄書房 (13)『自然農・栽培の手引き』2100円・南方新社



## 【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『東京かわら版 2月号』420円・東京かわら版 (2)『sumus 13』1575円・みずのわ出版 (3)『武田氏年表 信虎・信玄・勝頼』2625円・高志書院 (4)『隅田川を遡る』1260円・揺籃社 (5)『漫画批評 Vol. 1』500円・漫画批評 (6)『真田三代 活躍の舞台』1050円・信濃毎日新聞社 (7)『昭和プロレスマガジン 19』1000円・昭和プロレス研究室 (8)『酒とつまみ 第12号』400円・酒とつまみ社 (9)『こんな風に過ぎて行くのなら』2100円・石風社 (10)『夜想 #モンスター&フリークス』1575円・ステュディオ・パラボリカ

## 【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『鹿島アントラーズ 三連覇』1000円・茨城新聞社 (7)『ヒトのからだ』2310円・うぶすな書院 (8)『ちびくろ・さんぼ』1050円・瑞雲舎 (6)『円周率 1,000,000 桁表』330円・暗黒通信団 (2)『ろう者のトリセツ 聴者のトリセツ』1260円・星湖舎 (3)『こんな風に過ぎて行くのなら』2100円・石風社 (4)『インナーチャイルドが叫んでる!』1575円・ホメオパシー出版 (5)『愛じゃ! 人生をかけて人を愛するのじゃ!』1365円・ホメオパシー出版 (9)『アメとムチ』の構図』1000円・沖縄タイムス社 (10)『砂上の同盟』1260円・沖縄タイムス社

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

## トピックス — ★★★

### ▼計報

30数年に渡り、茨城県土浦市を拠点に地域出版を続けてきた筑波書林(発売元は茨城図書)の菊田俊男社長が、先月21日に亡くなりました。筑波書林のメインの刊行物は『ふるさと文庫』500巻です。2007年に閉店した書肆アクセスでは、ひるぎ社のおきな文庫や斎書房のふるさと文庫と並んでなくてはならないアイテムでした。すでに完結していて、それ以降は別冊という形で刊行が続いていました。その他の単行本を加えると同社の出版点数は900点余に及びます。この地域は戦前は官公庁の記録しかなかったといいますが、ふるさと文庫は、その土地の人の手によってその土地に密着した題材をテーマに書き留められたもの。例をあげれば『鯨絵新考—災害のコスモロジー』(気谷誠著 630円)、『利根川治水考』(渡辺一男著上/中/下各 630円)、『常陸国天狗譚』(岡村青著 609円)、『新編将門地誌』(赤城宗徳著一/二/三各 630円)、『町長日記』(永井三郎著上/下各 609円)等ユニークなものばかり。在庫があるものは今後も販売を続けていく予定です。

また1月に亡くなった歌手の浅川マキさんや2月に亡くなった作家の立松和平さんの著書で当センター扱いのものがありましたので、紹介したいと思います。『こんな風に過ぎていくのなら』(浅川マキ著 2100円石風社刊)、『原風景文集』(立松和平著 1/2/3各 1890円随想舎刊)、『良寛のことば—こころと書』(立松和平著 1575円考古堂書店刊)等。

## 郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。


◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM ~ 8:00 PM  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
 TEL. 03-3233-3312(代)  
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の  
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

